

# 施設花き栽培における 下水汚泥肥料の施用実証

令和7年度作成  
(試験実施：令和7年度)

農場の概要  
 ・地域：川越市                      ・対象作物：花き苗物（パンジー、ビオラ）

導入した資材等  
 ・下水汚泥肥料「クマムシくん888」（N:P:K = 8:8:8）

導入の目的・ねらい  
 花き栽培において、従来の化学肥料から下水汚泥肥料への転換について有効性を検討する

試験概要

- 作物：パンジー（コロッサス）、ビオラ（華あられ）
- 展示区：

	施肥（元肥として培土に混和）	培土100Lあたり 成分量（g）
展示区①	クマムシくん888（2g/L）	N:P:K = 16:16:16
展示区②	クマムシくん888（1g/L）、 マグアンプK、マグアンプⅡ早効き（各0.5g/L）	N:P:K = 15:38:15
展示区③	クマムシくん888（1g/L）、 マグアンプⅡ早効き（1g/L）	N:P:K = 16:28:16
対照区（慣行）	マグアンプK、マグアンプⅡ早効き（各1g/L）	N:P:K = 14:60:14

- 主な管理作業：土づくり 8月5日、定植 8月20～21日  
 （時期・内容）追肥 9月22日（オスモコートエグザクト 1.5g/L）  
 出荷（パンジー）10月10日、（ビオラ）10月18日
- 調査項目：生育（株張り、草丈、葉枚数、開花率）、ロス率、品質



導入資材：クマムシくん888

## 結果概要

パンジーでは、特に生育初期において展示区（「クマムシくん888」施用区）で対照区よりも株張りは大きくなったが、出荷時までには展示区と対照区で同等程度の株張りとなった（図1）。葉枚数は生育初期に大きな差はなかったが、後半は展示区が対照区に対し2割程度少なくなった。出荷時点では展示区と対照区で品質は同等となり、すべて開花した。

ビオラでは生育初期から出荷時まで、対照区に対して試験区で株張りが小さい傾向で推移し（図2）、葉枚数も2～3割程度少なかった。栽培期間全体を通じて生育の遅延がみられ、出荷時においてもすべて開花はしたものの、対照区に対して展示区でボリューム不足となった。

パンジー、ビオラとも、対照区と展示区で生育不良や病害等の発生については大きな差はみられなかった。

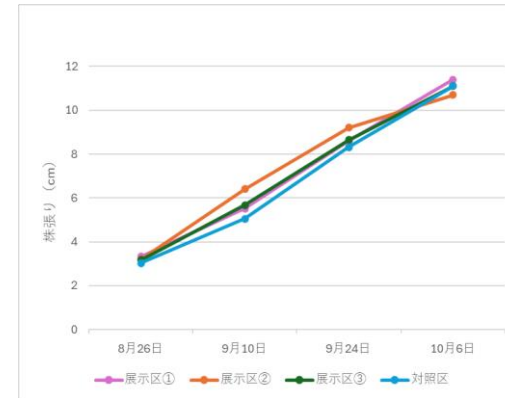


図1 株張りの推移  
(パンジー)

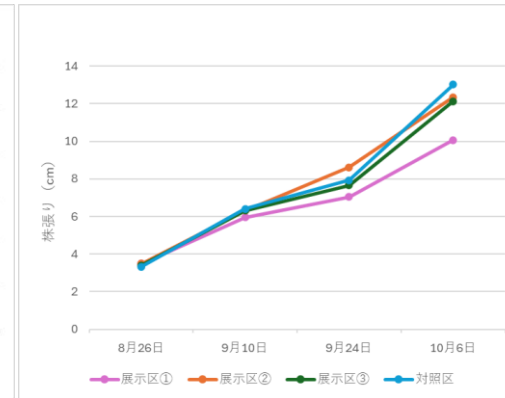


図2 株張りの推移  
(ビオラ)



出荷時の草姿 (パンジー)



出荷時の草姿 (ビオラ)

## 生産者コメント

「クマムシくん888」は、品目や栽培時期によっては効きが良くなかったことが課題と感じた。肥料自体の品質や使用感は悪くなかった。価格が重要で、慣行の化学肥料よりも明らかに低コストであれば今後普及していく可能性がある。

## 問合せ先

川越農林振興センター

電話 049-242-1804